

駅舎に響く聖なる音色 クリスマスコンサート開く

クリスマス盛り上げるチャリティコンサートが、12月23日、24日ＪＲ洞爺駅ふれあい広場で開催され、駅利用者や住民たちが、クリスマスソングやゴスペル（宗教音楽）を楽しみました。

ＪＲ洞爺駅とザ・ウィンザーホテル洞爺が共催して毎年行っているもので、今年で10回目。同ホテルの専属ミュージシャンで、フルートと電子ピアノの男女２人組「アラカメラＤＵＯ」(23日)とキーボード奏者のＣ・ハフさん(24日)が、それぞれ１日２ステージ実施しました。

募金箱も用意され、善意を寄せてくれた人には、同ホテルのパティシェ特製のスイーツがプレゼントされました。



やさしい音色を響かせたアラカメラDUO

毎年恒例の洞爺協会病院のクリスマス会が、12月26日同病院内のすずかけ



患者の皆さんを元気づけたクリスマスコンサート

の森で開かれ、ハマナス、ライラック両病棟の入院患者の皆さんを楽しませました。

今年は、虻田中学校吹奏楽部によるクリスマスコンサートを実施しました。頭にトナカイのツノの飾りをつけたり、サンタの帽子を被ったりして、クリスマスの雰囲気を楽しむ皆さんを前に、「Ａ列車でいこう」「グレンミラーメドレー」など吹奏楽の名曲を披露。

更にお年寄りの皆さんに合わせ、「津軽海峡冬景色」「川の流れのように」などの演歌も演奏され、長期入院の皆さんを元気づけました。

心を癒すクリスマス会 洞爺協会病院で吹奏楽のコンサート



捕獲技術について学ぶ参加者ら

12月27日、洞爺湖町鳥獣被害防止対策研修会が、農業研修センターで開かれ、

農家や関係者ら約20人が参加し、エゾシカなどの捕獲技術の紹介や活動報告のほか狩猟免許取得のための説明が行われました。

昨年４月から町の嘱託職員としてエゾシカなどの捕獲、駆除を行っている山本勲さんが、12月までに銃やくり罠でエゾシカを21頭捕獲したことを報告。今後の活動として、「エゾシカの行動パターンを調査し、越冬地での駆除を実施する」と述べました。農家へのアンケート調査でも、平成23年度に比べて、農作物への被害の減少が明らかになっており、効果が現れてきています。

エゾシカ捕獲で被害が減少 鳥獣被害防止対策研修会

海難防止を祈願 虻田救難所出初式

1 月6日、日本水難救済会虻田救難所（高清水幸夫所長）の平成25年出初式が、あぶたふれ合いセンターで開かれ、今年１年の安全と豊漁を、参加した所員一同が祈願しました。

式では、人員報告、服装点検の後、真屋敏春監督官から「虻田救難所の活動に励み、救難事業とともに漁業においてもよい年になるように願います」と訓示がありました。

来賓の挨拶を受け、高清水幸夫所長が「本年は、海難事故のない、平穏な１年になりますように訓練に精進してい



無事故を誓う虻田救難所出初式

く決意です」と答辞を述べ、出初式を終りました。

まちのわだい

